

AMDAが

帰国報告会

パプア津波災害

アジア医師連絡協議会（AMDA）は五日、パプアニューギニアの津波災害で救援活動に当たった緊急医療チームの帰国報告会を岡山市檜津の本部で開いた。

報告会では、七月二十一日に出発し、同三十一日に帰国した第一次派遣チームの看護婦中原美佳さん（三〇）大阪府吹田市が、活動拠点となった被災地アイタペ近くのマロル地区（人口三千人以上）の様子などを説明した。

死者はマロル地区だけで百二十六人。全体では千人以上に上り、被災者は千人に達している。

中原さんは一緒に派遣された二人の医師とともに、七月二十五日から五日間、約三百人を診察。傷を縫合したり、マラリアに感染した子供や海水を飲み肺炎になった人らに投薬したという。中原さんは「他国チームとの連携もとれ、トラブルもなく活動できた。今後は現地スタッフと復興支援について相談していきたい」と話している。

AMDAは救援のための募金を、郵便振替0125012140709（通信欄にパプアニューギニアと記入）で受け付けている。

アと記入）で受け付けている。

津波災害に

より負傷し

た患者の治

療に当たす

AMDA

急医療チ

ームのスタ

ッフ

パプア

ニューギ

ニア・マ

